

「2024 子ども世界遺産キャンプ in 高野山」  
(第2回 子ども世界遺産キャンプ)  
事業報告書



主催：NPO 法人全国てらこやネットワーク  
協力：和歌山県・文化庁

## 目次

●ご挨拶…2 ページ～5 ページ

NPO 法人全国てらこやネットワーク 理事長  
子ども世界遺産キャンプ in 高野山 事業責任者  
子ども世界遺産キャンプ in 高野山 学生統括  
子ども世界遺産キャンプ in 高野山 てらネット学生統括

上江洲 慎  
井口 愛彩  
白鳥 佐耶香  
岡田 康生

●事業概要 ●参加者内訳など…7ページ

●事業の目的、趣旨 ●本事業の成果…8～9ページ

●事業のスケジュール・内容…10 ページ

●参加(お子さん)の感想…11～12 ページ

●参加者(保護者様)の感想…13～14ページ

●学生スタッフの感想…15ページ

●決算報告…16ページ

本事業のランディングページはこちらの QR コードからご覧いただけます。

## ご挨拶

第2回「子ども世界遺産キャンプ in 高野山」を無事に開催することができ、ご支援ご協力いただいた皆様、森羅万象すべてのご縁に感謝申し上げます。

「子ども世界遺産キャンプ」は、その前身である「てらこやネットワーク合宿」(通称てらネット合宿)から、アップデートする形で誕生し、初回となる昨年は宮島大聖院にて開催しました。

子どもの体験格差が社会課題としてあげられる中、「日本全国の子どもたちに、一生の思い出に残る感動体験を届けたい」という想いをぶらすことなく、「子ども世界遺産キャンプ」を継続開催する運びとなりました。昨年参加された子どもたちや保護者、そしてボランティアとして参加した大学生たちから、たくさんの感動体験の声を聞いたことが一番の背中押しになったことは言うまでもありません。

世界の中でも、その自然的、歴史的、文化的な価値が優れているとされる「世界遺産」の場を、子どもたちや若者たちの人格形成と成長の舞台として活かすことができたら、どんなに素晴らしいことか、胸を踊らせながら、企画運営を進めて参りました。一方で、世界遺産高野山の歴史や文化の素晴らしさを私たちスタッフがどのように理解し、何を子どもたちに伝えたいのか、それを伝えるためのプログラムとして何が相応しいのか、世代や立場、地域の違いを超えて議論を重ね、葛藤を乗り越えて来たプロセスもありました。

そして、迎えた本番当日。緊張とワクワクのある長距離移動、登山を経て辿り着いた高野山。ハトハトになりながらも、豊かな緑と荘厳な門、お堂に感嘆しながら活動がスタートしました。

室内の活動と宿泊でお世話になった普賢院での体験も特別な体験がたくさんありました。

お念珠づくりに、ごまとうふづくり等、高野山という場だからこそ、その意義や特別感をたっぷり感じることができました。「高野山にキャンプ場があるとは知らなかった！」という驚きから始まった、キャンプ場でのオリジナルTシャツづくりやお食事も子どもたちの感性とエネルギーをたっぷり開放する時間となりました。

護摩祈祷、受戒、金剛峯寺参拝、奥之院探索も特別な体験として、子どもたちの胸に刻まれたことでしょう。

そんな子どもたち、学生たちの様子を見て、感動と成長を確かに感じることができました。そして、ここで育った子どもたちが日本が世界に誇る宝を自分たちやその後続く未来に受け継いでくれることを願ってやみません。

この特別な環境での気づきや学びを  
自分たちの暮らす日常に持ち帰り、いつもの暮らしの中でも活かしてくれることでし  
よう。

高野山での開催にあたり、角濱ごまとうふ総本舗の角濱さんに、ご縁つなぎと、トータルコーディネイトを賜りました。世界遺産高野山への愛着とリスペクト、積極的行動とオープンマインドを体現されている角濱さんの存在そのものが、子どもたち、若者たちのよきお手本となりました。

世界の未来を生かす、子どもたち、若者たちの感動体験にご支援ご協力を賜りました、

全ての方々、脈々と連なるご縁に心より御礼申し上げます。

NPO 法人全国てらこやネットワーク  
理事長 上江洲 慎



## ご挨拶

この度は、NPO 法人全国てらこやネットワークの活動に、ご賛同いただきありがとうございました。

子ども世界遺産キャンプ in 高野山は、てらこやとして初めて高野山で活動いたしました。

子どもも学生も、ひいては大人メンバーも、初めての出会いに期待と戸惑いを覚えながら、高野山での唯一無二の体験に感動を覚えています。

キャンプの中では、子どもからの「もう終わっちゃう」「また会いたい」という声が多く聞こえ、学生とともに感動体験を届けられたのではないかと感じます。

また、中心メンバーとして動いてくれた、各地から集まっている学生たちが、自分のてらこやの色を活かしつつ、全国てらこやネットワークとしての活動を最良のものとするために、日々議論を重ねていた姿も印象的でした。

高野豆腐づくりを教えていただくだけでなく全てのサポートをしていただいた角濱さん、子どもたちを送り出してくださった保護者の方々、ご協賛をいただいた方々も含めて、関わってくださった皆様、ありがとうございました。

高野山でのキャンプはたくさんの笑顔が生まれたものの、当法人の課題も多く見えました。

各地のてらこやとの連携、学生メンバーの質の担保、OB・OG からの協力、継続的に事業を行うための財源確保等、解決すべき課題は山積みです。

これからも持続的に、子ども・学生にとって一生消えないキラキラした体験を届けられるよう、大人・学生ともども邁進していく所存です。

引き続きご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

子ども世界遺産キャンプ in 高野山 事業責任者  
井口 愛彩(てらこやみなとみらい OG)



## ご挨拶

「子ども世界遺産キャンプ in 高野山」を無事開催することができたこと、大成功で幕を閉じることができたこと、沢山の方々に支えられたことすべてに感謝申し上げます。

このキャンプは、学生のよりもっと多く子どもたち出会いたい。全国の子どもたちと共にキャンプをしたい。一生の思い出になるような、特別な場所でやりたい。という「想い」から始まりました。また、私は「2023年度子ども世界遺産キャンプ in 宮島」に参加した際に、全国にたくさん子どもたちと仲間がいることを知りました。ですので、このキャンプでは私が昨年経験した「自信」を、てら友(参加者全員)に届けたいという想いでいました。しかし、想いだけではその目標は実現になりません。私1人の力では何もできなかったです。でも、このキャンプには「仲間」がたくさんいました。私の想いに対して本気でぶつかり、苦しいときも楽しいときも、一緒に最後まで向き合ってくれた仲間。学生だけでは何も思いつかないことを教えてくださり、面と向かって叱ってくださった大人。応援して下さるOBOG。そして、現地の方々、ご支援をくださった皆様。すべての方々がいたからこそ、このキャンプは想いだけではなく現実に、最後までやりきることが出来ました。改めて、心より御礼申し上げます。

また、今回のキャンプのなかで、てら友(参加者全員)が「笑顔」が溢れていた3日間でした。たった、「笑顔」かもしれませんが、今回のキャンプのすべてが詰まっているのだと思います。まぎれもなくこのキャンプは「自信」でした。企画では、みんなが自分のTシャツに製作している時、楽しそうに、自慢げに、自分自身の気持ちがTシャツにあふれている瞬間でした。そのTシャツを着て大門でファッションショーをするときには、民が堂々と自分のTシャツを班のみんなで発表している姿は「自信」に満ち溢れていました。お寺の時間では、初めて経験する子、経験したことある子いましたが、周りには班のみんなが良かったから「チャレンジしよう!!」「やってみよう!!」という気持ちが芽生え、やってみたら「精進料理たのしかった!」という声が聞くことが出来ました。私は自信をもってこのキャンプはてら友(参加者全員)が「自信」であったと言えます。そして、このキャンプが開催できたことに、嬉しさと、誇りを心の底から感じております。

1つの区切りとして、キャンプには終わりがあります。しかし、てらこやには終わりがありません。そして、全国てらこやネットワークはまだまだ成長します。その成長を続けた先に、このキャンプを超える「感動体験・とき人の出会い」を、全国にいるてらこやとの出会いを待ち続けている子どもたちに届けることが出来ると思います。今回得た学びを次に生かし、精進してまいりますので、皆さま何卒応援をよろしくお願い致します。

改めて、「子ども世界遺産キャンプ」を応援して下さった皆様に、心より御礼申し上げます。

子ども世界遺産キャンプ in 高野山 統括  
ジャンボ (白鳥 佐耶香 東京福祉大学3年生・伊勢崎てらこや)

## ご挨拶

今回のキャンプには、9か所のてらこやの子どもたちと、12か所のてらこやの学生たちが集まり、みんなで「自信」を求めて活動することができました。てらネット学生統括として、去年よりも多くの地域の子もたちと学生たちが集まったことを大変うれしく思っています。

今年度のてらネットの目標は「みんなで」です。てらこやとして横のつながりが広がったからこそ、多くのてらこやの皆さんにご参加いただけたと思っています。今回の世界遺産キャンプでは、「みんなで」の思いがあふれていました。

各地の特色があるからこそ出会えた新しい価値観、普段過ごしている地域から外に出たからこそ出会えた人々との出会い、すべてが詰まったキャンプでした。今回初めて合宿を行う高野山で活動できたこと、この出会いとご縁に感謝しています。

今回のキャンプでは、さまざまな企画を通じて、子どもたちと学生たちが挑戦する姿が見られました。特に、自然の中での活動やお寺での生活を通じて、参加者全員が自分の限界に挑戦し、その経験をもとに「自信」につなげることができました。

その中でも特に印象に残ったのは、子どもたちも学生たちも自分たちの意見を積極的に伝え、チャレンジしていたTシャツづくりの瞬間です。子ども同士、学生と子ども、学生同士が互いに自分の意見を伝えあい高めあっていました。参加者全員がチャレンジし、そして成長し、自信を持つことができたと感じています。

最後に、キャンプ当日だけでなく、事前の段階から多くの方々にご協力いただきました。皆様のご支援があったからこそ、このキャンプを成功させることができました。心から感謝申し上げます。

今後も「みんなで」を大切に、さらに多くの地域の子もたちと学生たちが交流し、成長できる場を作っていきたいと思えます。引き続き、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

子ども世界遺産キャンプ in 高野山 てらネット学生統括  
岡田 康生(大東文化大学3年・一般社団法人武蔵てらこや)



●事業概要

日時:2024年9月14(土)~16日(月・祝) 2泊3日

会場:高野山 (和歌山県伊都郡高野町高野山)

参加対象:全国の小学3年生から中学3年生

●2024 子ども世界遺産キャンプ in 高野山 主催者

NPO 法人全国てらこやネットワーク

理事長 上江洲 慎

●事業コアスタッフ

事業責任者 井口 愛彩(てらこやみなとみらい OG・2021年度 2022年度全国てらこやネットワーク学生統括)

学生統括 白鳥 佐耶香(東京福祉大学3年・伊勢崎てらこや)

学生副統括 岡田 康生(大東文化大学3年・一般社団法人武蔵てらこや)

学生担当 内堀 ななせ(豊田工業高等専門学校5年・豊田てらこや)

企画リーダー 落合 綾馬(神奈川大学2年・NPO 法人鎌倉てらこや)

裏方リーダー 鎌田 れの(和洋女子大学3年・市川てらこや)

広報リーダー 鶴岡 暖乃(昭和女子大学3年・龍雲寺てらこや)

●子ども参加者内訳 参加(子ども)総数 60人

・居住地

東京都7名・千葉県11名・埼玉県8名・神奈川県14名・群馬県6名・愛知県9名・滋賀県2名・広島3名

・学年

小学生 54名

(小学3年生11名・小学4年生18名・小学5年生7名・小学6年生18名)

中学生 6名

(中学1年生6名・中学2年生0名・中学3年生0名)

・性別

男子29名 女子31名

●大学生・高校生参加内訳(事業コアスタッフをのぞく)参加総数39名

てらこやちば3名・市川てらこや3名・龍雲寺てらこや2名・武蔵てらこや3名・鎌倉てらこや6名・てらこやみなとみらい2名・伊勢崎てらこや2名・豊田てらこや5名・てらこやつばさ1名・西宮てらこや3名・泉佐野てらこや3名・宮島てらこや3名・びわてらこや2名

●OBOG 参加内訳 参加総数8名

てらこやちば2名・てらこやみなとみらい1名・びわてらこや2名・NPO 法人豊田てらこや1名・宮島てらこや2名

## ●事業の目的、趣旨

今回のキャンプのテーマは「自信」だ。

てら友(参加者全員)が全力で合宿を楽しみ、自分らしさを表現し互いに認め合う。「仲間と一緒にチャレンジできた」という経験を通して成功も失敗も自身の糧にしてほしい。この経験が「またチャレンジしたい」につながるような合宿を届ける。

自分らしさをどんどん出して行くことで、新しい価値観や、新しい自分と出会うことができる子がいる。その一方で「自分でもできるかな」「失敗したらどうしよう」とやってみたい気持ちはあるが、一歩踏み出すことが苦手な子がいる。苦手だった食べ物を食べてみたら、美味しかった！！みんなの前で話すのは苦手で自信がなかった。しかし、話してみると楽しかった！自分の想いが伝わりよかった！と、これまでは自信がなく後ろ向きに考えていたが、チャレンジすることにより、やり遂げたときの達成感が、自分の自信に繋がる。このように、子どもたちにとっての、チャレンジがいろいろな所にあふれている合宿にしたい。

「あのときチャレンジできたから」「あのときやってみようと思えたから」が自信につながり、あの経験が合宿を終え日常に戻ったときもう1回チャレンジをするきっかけする。

キャンプで出会った「てら友」とその場で感じた自分の思いを素直に表現し合い、やってみたくと思ったことにチャレンジして自信をもって欲しい。

学生は今いる目の前の仲間たちに対し、何が常にか常に考え続け、共にチャレンジし、自信を持って欲しい。子どもたちの「やってみたい」、学生の「やってみたい」という気持ちに向き合い、認め合い続けながらチャレンジして欲しい。

高野山では、1200年間、弘法大師空海が今もなおそこに生き、世界の平和と人々の幸福を願い瞑想を続けられていると信じられている。このように、子どもたちにも高野山で感じた想いは、これからの人生において消えない。共に生き続けている。

また、奥の院では織田信長、パナソニック株式会社、農民などの墓が同じ場所にある。女人高野、女人道、ろくろ峠と言った、女性が高野山に入ることが許されなかった時代にも、お大師さんを信仰する女性のために、なんとかと、作られたもの。だから差別もなく誰もでも平等に「チャレンジ」「自信」を得る機会がある。

## ●本事業の成果

今回のキャンプ「2024 子ども世界遺産キャンプ in 高野山」では、全国から子どもたち学生が集まり2泊3日のキャンプを、初めて会う人、初めて行く場所で行うことは、楽しみの気持ちもありますが、不安な気持ちもあります。

ですが、てら友(参加者全員)は、笑顔いっぱい同じ班の子どもたち学生と、入山ハイキングに始まり、お寺での時間、Tシャツづくり、大門ファッションショー、胡麻豆腐づくりなど、子どもたちは様々な挑戦に果敢に取り組み、彼らが全力で楽しむ姿や、新しいことにチャレンジする中で「自信」を深めていく瞬間が沢山見られた。

それは、てら友(参加者全員)にとって初めての経験だったり、2回目の経験だったり、人それぞれ。だからこそ、初めての子は近くにいる子どもたち、学生の姿を真似しながらやってみたり、経験したことがある子は、お手本になったりと、その子にとってのチャレンジがいろんな場面であふれていた。

ですから、今回のテーマである「自信」を育む大きな一歩を、子どもたち一人ひとりに提供することができた。

また、子どもたちや保護者の皆様から、来年度の開催を望む声が数多く寄せられたことから、このキャンプで子どもたちは日常では得られない感動や、心に残る出会いを経験し、子どもにとってさらなる成長の機会を得ることができたのではないかと。

最後に、この「2024 子ども世界遺産キャンプ in 高野山」でのチャレンジした経験が、これからの仲間(参加者全員)の成長への、「自信」に繋がっていくことを願っている。



●事業スケジュール

【9月14日(土)1日目】

- 7:00頃 各地集合・出発
- 12:00 新大阪駅出発
- 14:45 入山ハイキング
- 17:30 開会式
- 18:00 夕食(精進料理)
- 19:00 念珠づくり
- 20:00 お風呂
- 21:30 完全消灯



【9月15日(日)2日目】

- 6:00 起床
- 6:40 掃除
- 7:20 朝食(精進料理)
- 9:00 授戒
- 10:00 護摩行
- 10:30 金剛峰寺拝観
- 12:45 昼食
- 14:00 Tシャツづくり
- 16:00 奥の院散策
- 17:00 夕食
- 18:00 お風呂
- 19:30 大門ファッションショー
- 21:30 完全消灯



【9月16日(月・祝)3日目】

- 6:00 起床
- 6:30 お勤め
- 8:00 朝食
- 9:00 胡麻豆腐づくり
- 10:45 閉会式
- 11:15 昼食
- 15:15 新大阪駅出発



●参加者(お子さん)の感想・ご家庭に帰った後の様子

・全てたのしいことばかりで話しきれない！写真が全く取れず、せっかくの楽しい思い出が薄れていってしまう！

・Tシャツづくりのときに崖に登ったのが楽しかった！

・Tシャツづくりが熱中していた！

・ファッションショーは人生にない経験で印象的であった。

・自宅に帰り、現実に戻るのがとても寂しそうであった。

・精進料理のときのお経など実演して見せてくれた。

・お世話になった方々の名前を話しながら話している。

・他の地区のてらこやに友達ができ、入山ハイキングが大変だったけど頑張った。

・また来年も参加したい！（多数の声）

・新しい友達との交流をもてたこと！ハイキングが楽しかった！ファッションショーで自分を表現できた！胡麻豆腐おいしかった！！数珠の檜の香りがとってもよかった and 世界で一つだけの数珠 and 空海さまが覗けるのも楽しい

・大学生の方と仲良くなれて嬉しかった。

・ノリの良い学生さんと仲良くなり、ずっと一緒だったのが嬉しかったようです。県外の友達もできてなかよくなったと喜んでいました

・入山ハイキングと精進料理は班で高野山のよいところを学べた。ファッションショーはみんなで盛り上がる事ができた。

・入山ハイキングが大変だったけど、みんなで励まし合いながら最後まで登れたことが思い出に残ったそうです。

・班の友達と仲良く協力して楽しくTシャツ作りができた、初めての体験だった。

・班のメンバーがとてもよかった。学生がいい人ばかりで勉強になった。最高の出会いだった。

・キャンプへ行く前から、奥の院へ行くことをとても楽しみにしていました。普段、体験できないことばかりで、とても面白かった。

・入山ハイキングでは栗を見ることができ、小川が気持ちよく、楽しく、休憩のとき皆が待ってくれた。7班の発表がすごく良くて他の人たちも自分だけのものをハイキングは班で楽しく協力出来、ファッションショーは観るのもやるのも楽しかった！胡麻豆腐はみんなで協力して擦ったり煮たり楽しかった。発表したのが个性的で良かった



・Tシャツ作りは自然の材料を使ってハンコを押すのがとてもたのしかった  
胡麻豆腐作りでは、おもちゃみたいにもちもちで美味しくできた。スライドショーは、三日間の思い出を振り返ることができ、ファッションショーでは、班それぞれのポーズなども楽しかった。

・胡麻豆腐の作り方を知る事ができ、帰宅後に家族にも話したら、そうやって作るんだね！すごいね！と言ってもらえた。あと、実際に作ったものを食べて、思い出になった。

・企画自体が面白かったことや学生と子供のふれあいがとても良かった。

・帰宅後の夕飯で、お肉が食べたいと言っていました。精進料理の意味を知り、体験したことがとても有意義に思った。

・ハイキングは大変だったけどすごい綺麗な景色を見れたし、ごま豆腐は作ったことがなかったのはじめての体験だったけど楽しかった。



## ●参加者(保護者様)の感想

・一生の思い出となる、とても素敵な三日間になりました！本当にありがとうございました！

・普段はできないような貴重な体験ができ感謝しています。毎回帰ってくると、色々な体験をした事や感じたことを話してくれて成長したなと感じています。

・子どもたちが一回り大きくなって帰ってきたのがとても印象的でした！  
・日本各地から集まった方々と過ごした三日間はかけがえのない思い出になったと思います。

・家族旅行では企画できない内容だったので羨ましく思いました。はじめての精進料理美味しかった。数珠もかっこいいでしょと自慢していました。

・素晴らしい。学生さんたち凄い。自分たち親の学生時代とは雲泥の差。輝く未来を創るに違いない。

・子どもたちが楽しめるように、たくさんの企画や準備をしてくださり、どうもありがとうございました。みなさんのおかげで、大変有意義な経験ができました。日本各地から集まった色々な方と過ごした三日間はかけがえのない思い出になったと思います。お世話になった皆様に、心より感謝申し上げます。

・他のてらこやの子たちや学生さんたちと話したりできたことがうれしかったようです。家族以外の人と新幹線に乗ったりすることが初めてなので、みんなで遠くに行くことが楽しかったそうです。このような機会をくださりありがとうございました。

・いろいろキッズキャンプは参加していますが、てらこやは初めてです。いつも日程がかわず、1年以上参加していなかったのですが、久しぶりでもなにも気にすることなく混ざれたようです。年の近いお兄さんお姉さんと一緒に乗り物に乗ったり、三日間を一緒に過ごすことはなかなかないのでとにかく楽しかったと笑顔で帰宅していました。

・家族旅行では企画できない内容だったので裏やましく思いました。はじめての精進料理美味しかったよ、と言っていました。数珠もかっこいいでしょと自慢していました。また来年もぜひ参加したいと言っていました。大変お世話になりました。ありがとうございました。

・子どもにとって楽しい時間をありがとうございました。この経験は、彼のこれからに有意義なものとなるでしょう。もし大学生になったら運営側に回ってくれたらなー。って親は思っていました。

・企画、準備、そして当日は子どもたちの面倒をほんとうにありがとうございました。学生さんはもちろんのこと、出会えた子どもたち、参加したみんなが盛り上げてくださり、良い経験、体験となりました。機会がありましたらまたよろしくお願いします。

・ずいぶんと気にかけていただいたみたいで、ありがとうございました。親から離れて世界遺産に行くチャレンジができて、自信ができ、良い思い出になったみたいです。

・子どもたちは緊張してなかなか話しかけられないところ学生さんたちの声掛けで子どもがとても楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。

・今回参加させていただきありがとうございました。当初からジャンボさんにあったらいろいろとお話するんだと、とても楽しみにしておりました。学生の皆さんやたらこやスタッフの方々のおかげで貴重な経験をさせていただきました。

・少しでも長い宿泊体験があればうれしいので、連休を利用しての開催はありがたいです。



## ●学生スタッフの感想

・子ども、学生の人数の規模だったり、企画の内容だったり、それぞれのてらこやの個性だったり、自分のてらこやにいただけでは想像すらできなかったような経験と学びだらけですごく楽しかった！

・今回の合宿は心が動かされることの多い合宿でした。特に2日目のファッションショーや3日目の胡麻豆腐作りなどで子供たちが自分たちで協力して、なんなら「ねえ、サイン書いてー」や「学生も1回ずつ漬して」と学生も巻き込むような行動をとってすごく感動しました。子供たちが学年も地域も異なる人達と協力してなにか1つのものを作り上げ、それが認められる、「自信」という目標にピッタリないい企画だと思いました。学生としても、他のてらこやと関わり、お互いの活動や関わり方の違いや学生同士の連携の大切さなどたくさん得るものがありました。これらは豊田に持ち帰り活かしていきたいです。この3日間本当に楽しかったです。ありがとうございました。

・子どもがお弁当を並べて班員を待っているときに、「完璧目指すから正座で待つわ！」と言って子どもが2人でにやにやしなから黙って座っていたり、大門までに行く途中で発表担当だった子たちが練習しよ！と自分たちで声をかけあっていたり、バスで国名100個何も見ずに言ってみたり、みんなで手水のやり方を学んでみたり、奥の院の神秘的な空間を堪能したり、ほんとうにとっても楽しかった。

・Tシャツ作りのときにもうみんなのやりたいが爆発してて、自分のTシャツに一生懸命向き合ってる姿が印象的だった。

・班の子供達全員が自発的に「帰りたくない」や「楽しかった」という言葉を言っていたため、とても嬉しかった。

・この3日間やりたいことがたくさん詰まっっていて、知らない場で、知らない子と感情や、企画、活動、生活を共有することは簡単なことじゃないと思うし、相手に伝えてたいこととかがうまく共有できないこともたくさんあったけど、でもそのなかで今のじぶんができる、伝えられる精一杯を届けられて、すこしでもそれが子供に響いていたらいいなと思う。今回の旅を通して子供の圧倒的適応力、反応の良さ、成長の早さを痛感したからこそ、自分自身も負けずにたくさん吸収して試行錯誤して届けられるものが増えたらいいなと思う。てらネットで感じたのは、子供と対等な立場で本気で向き合う、ということがとても大事だということだ。学生の中でも、疲弊して気が抜けてしまっていたり、特にお寺の時間、非日常の神聖な空気感を味わえるからこそ最初から本気でぶつかってもっとすごいを子供に届けられたらいいなと思った。他のてらこやの学生の活動を見る中で、どんどん価値観がすり合わさってよりよい班の空気感づくりができていたのもよかった。そして、私自身がまだまだ未熟であることをいやというほど痛感させられたし、もっと吸収できるし、アンテナ貼れるし、寄り添えるし、ぶつかれると思ったから、また鎌倉で自身を磨いて、てらネットで磨いて、いろんなことや、気持ちが子供に届けられたらいいなと思った。本当に素晴らしい経験でした。

発行:NPO 法人全国てらこやネットワーク  
神奈川県鎌倉市大船1-25-23 千里ビル 3F  
TEL:0467-84-9764(平日 13時~17時)  
FAX:0467-84-9748(24時間受付)  
メールアドレス:info@terakoya-network.com  
HP: <http://terakoya-network.com/>